

## [Ⅱ 中等教育研究]

# 附属生徒の日常生活における有能感・感情・満足度

速水敏彦\*・鈴木有美\*\*

### 【問題と目的】

### 【方法】

被調査者

手続き

### 【結果と考察】

有能感と生活満足感の下位尺度

全体的な分析

### 【討論】

### 【問題】

近年、特に教育心理学や発達心理学の領域において、健康な心的機能の維持や才能・資質を伸ばすといった、肯定的な側面に焦点を当てた研究を推進する Positive Psychology の動きが再び活発化し、その中で有能感やライフイベントに伴う感情経験などが注目されている（例えば、Seligman & Csikszentmihalyi, 2000）。

従来の青少年を対象とした研究では、損なわれた心的機能の治療という観点から、学校ストレス、いじめ、不登校といった否定的な側面に焦点を当てた研究がより積極的に進められてきた。しかし、根本的な問題解決のためには対症療法的な治療的援助よりも早期の予防的介入が有効であること、さらに学校問題を未然に防ぐための成長促進的な介入を考慮する必要があることなどが、次第に明らかとなっている。例えば、中学校における不登校への取り組みとしての実践研究の場合、適応指導教室の設置や保健室・校長室登校の承認といった教室外登校に注目した活動（すなわち不登校が発生してから援助が始まる治療的援助）よりも、教育相談・学習指導・学級経営などの部会組織を結成した全校的な取り組み（すなわち不適応傾向のみられる者に対する予防的介入や、不登校を出さない学級経営を目指した成長促進的な介入）の方が、不登校の大幅な減少のみならず、全校生徒の無気力傾向の低下にも成果があることが示された（保坂、2000）。また、笠井・村松・保坂・三浦（1995）も、問題行動の予防的観点から、一般的な小・中学生が日常生活において感じる無気力感とその関連要因についての検討を行っている。しかし、成長促進的な観点からみれば、肯定的な側面についての検討も必要であろう。

\* 教育学部附属中・高等学校長

\*\* 教育発達科学研究科研究生

ただし、肯定的な側面に焦点を当てた検討を行う際、これまで注目を集めてきた心理学的概念が、特定した領域における全体的な自己価値・精神的健康度の指標として測定されるにとどまっている点に留意する必要がある。有能感については、松井・村田（1997）が学習、課外活動、同性・異性の友人関係といった具体的な生活領域に焦点を当てた測定を試みているが、項目内容については一般的な傾向を反映させたものととどまっている。そのため、青少年の日常生活により即した面からのアプローチが有益であると考えられる。感情経験についても、特殊な事態に伴って生起する感情だけでなく、自己価値を基底的に支えるような日常生活事態に伴う感情の検討を進めることが、青少年の適応的な学校生活や家庭生活、および日常の精神的健康の維持にとって有益な知見をもたらし得ると予想される。

したがって本研究では、中学生および高校生の生活の特徴を知り、今後の教育のあり方の参考にすることを目的として、特定の生活領域における具体的な行動項目によって有能感、生活事態に伴って生起する感情および生活満足感の実態を明らかにする。また、中1から高2までの学年差についても検討する。学年差については、普通の中学においては高校受験による影響が中3あたりで有能感、感情、満足度等に反映されると推測されるが、本校のような併設型中高一貫校ではそのような影響は少ないと思われる。すなわち中3で有能感や満足度が急激に低下したり、否定的な生活感情が急に増大する傾向は弱いと考えられる。

## 【方法】

### 被調査者

名古屋大学教育学部附属中・高等学校に在籍する生徒447名（内訳：中学1年生80名、2年生74名、3年生78名、高校1年生110名、2年生105名。被調査者数の内訳については、Table 1 参照）。

### 手続き

有能感、日常生活事態とそれに伴う感情、および生活満足感を測定するための調査用紙CELSSA（the Competence-Emotion-Life Satisfaction Schedule for Adolescents）を作成し、授業時間を利用して記入を求めた。CELSSAの構成は、第1部：日常生活における有能感、第2部：日常生活における出来事とそれに伴う感情、第3部：日常生活における生活満足感となっていた。

日常生活における有能感は、今回新たに「学校生活」「家庭生活」「私的生活」「社会的側面」「身体的側面」の各5領域において有能感を持ち得ると考えられる具体的な行動項目を用意し、尺度を

表1 被調査者数 内訳

学校	中学 232						高校 215						合計
	1年 80		2年 74		3年 78		1年 110			2年 105			
学年	A	B	A	B	A	B	A	B	C	A	B	C	
クラス	A	B	A	B	A	B	A	B	C	A	B	C	
男子	20	20	19	19	20	19	19	18	18	16	17	16	221
女子	18	19	17	19	20	19	20	17	18	19	17	19	222
不明		3									1		4
合計	38	42	36	38	40	38	39	35	36	35	35	35	447

作成した。この尺度は77項目からなり、具体的には学校生活有能感20項目、家庭生活有能感12項目、私的生活有能感16項目、社会的有能感20項目、身体的有能感8項目で構成された（項目内容はTable 2-1を参照）。また、測定される有能感は、実際に行ったことがある、もしくは現在行っている行動経験によって生起する有能感に限定し、自己効力感との区別を図った。よって、各行動項目について自信を持って行えるかどうかについて○印（自信を持ってできる・それをすることに優れている）、△印（どちらともいえない）、×印（自信を持ってできない・それをすることに劣っている）の3段階で評定を求めるとともに、経験のないものについては？印を付けるよう教示をした。

日常生活における出来事とそれに伴う感情は、学年末の調査ということもあり（調査時期：2001年2月）、当該学年において最も印象深かった出来事を「授業場面」「（休み時間中など授業以外の）校内場面」「家庭場面」「（通学中や休日など）学校・家庭以外の場面」の4場面に分けて自由記述を求め、各出来事の際生起した「怒り」「喜び」「悲しみ」「面白さ」の4感情について、1（全く感じなかった）から4（とても感じた）までの4段階による評定を求めた。

日常生活における生活満足感、今回新たに「全般的な生活満足感」に加えて「学校生活」「家庭生活」「友人関係」の4領域における生活満足感を測定する尺度を作成した。この尺度は20項目からなり、具体的には学校生活満足感6項目、家庭生活満足感5項目、友人関係満足感5項目、全般的な生活満足感4項目で構成された（項目内容はTable 2-3を参照）。それぞれの項目について、1（全く当てはまらない）から5（とてもよく当てはまる）までの5段階による評定を求めた。

## 【結果と考察】

### 有能感と生活満足感の下位尺度

まず、有能感の各下位尺度について合成得点を算出した。その際、○印を3点、△印を2点、×印を1点とし、得点が高いほどその領域の行動について有能感を感じていることを表わすよう得点化した。？印の回答については除外をした結果、有効数の比較的少なくなった項目については合成得点の算出に組み入れないこととした。各下位尺度の信頼性の指標として算出した $\alpha$ 係数は、学校生活有能感.83、家庭生活有能感.72、私的生活有能感.73、社会的有能感.85、身体的有能感.61であった。

次に、生活満足感の各下位尺度についても有能感同様、得点が高いほどその場面・側面の生活について満足感を感じていることを表わすように合成得点を算出した。その際、この尺度を構成している全20項目に関して主成分法による因子分析を行い、固有値の減衰状況と因子の解釈可能性から当初想定した4因子解を採用し、promax回転を行った。その結果、全般的な生活満足感を測定するための項目12番については、因子の内的整合性と項目内容の観点から今後の分析には含めないこととした。各下位尺度の $\alpha$ 係数は、学校生活満足感.81、家庭生活満足感.83、友人関係満足感.82、全般的な生活満足感.70であった。

### 全体的な分析

Table 2-1は、有能感、生活感情、生活満足度について全被調査者の回答について各項目ごと、および各カテゴリーごとの平均および標準偏差を算出した結果である。まず、学年間の違いをこえ

た全体的な傾向に注目する。

第一に、有能感についてみてみよう。学校生活有能感の中の教科学習については、相対的に音楽、道徳、体育、総合人間科といった教科での有能感が高く、数学や理科の教科での有能感が低い。教科以外では、「学校行事に参加すること」「先生や級友の話をしっかり聞くこと」といった、やや受身的な内容での有能感は高いが、「むずかしい文章を読んで理解すること」や「生徒会活動をいっしょうけんめいすること」といった能動的な内容では有能感が低かった。

次に、家庭生活有能感に関してはなぜか「礼儀作法について学ぶこと」が「自分の衣服を選ぶこと」と並んで最も有能感が高い。一方、「電気器具を修理すること」とか「手芸・編物がじょうずなこと」の有能感は相対的に最も低かった。

私的生活有能感では、囲碁・将棋・マージャンや映画、スポーツのテレビ中継といった娯楽性の強いものに対する有能感よりも、小説・物語を読む、新聞を読む、パソコンをすることといったような生産的な活動での有能感の方が高かった。

社会的有能感のような、人々との人間関係を築くことについての有能感は概して高かった。中でも、母親や同性の友人との人間関係を築く有能感は高かった。これに対して、先生や異性の友だちとの人間関係の成立の有能感は相対的に低かった。人間関係以外の社会的有能感、例えばボランティア活動をしたり、社会・政治問題に意見を言うことに関する有能感は特に低かった。

身体的有能感では、食欲、健康については高かったが、容姿のよさについては低かった。

各領域ごとの比較では、有能感の高い順に社会的有能感、学校生活有能感、身体的有能感、私的

表 2 - 1 有能感項目・尺度得点の平均値と標準偏差

	(全体)		(中1)	(中2)	(中3)	(高1)	(高2)
	有効数	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)
学校生活有能感 ( $\alpha = .83$ )	293	2.10 (.38)	2.28 (.28)	2.05 (.41)	2.11 (.38)	2.12 (.38)	1.96 (.37)
19 数学の学習	433	1.93 (.77)	2.09 (.77)	1.88 (.73)	2.20 (.73)	1.83 (.78)	1.77 (.77)
06 国語の学習	431	2.01 (.72)	2.25 (.57)	1.75 (.70)	2.07 (.68)	2.10 (.73)	1.87 (.78)
01 英語の学習	431	1.96 (.78)	2.23 (.69)	1.99 (.82)	1.88 (.73)	1.99 (.79)	1.77 (.79)
73 理科(生物・化学・物理・地学など)の学習	430	1.92 (.75)	2.16 (.70)	1.83 (.79)	1.97 (.72)	1.84 (.75)	1.85 (.73)
40 社会科(日本史・世界史・地理・公民など)の学習	433	2.06 (.76)	2.13 (.76)	1.99 (.81)	1.97 (.72)	2.09 (.74)	2.10 (.77)
63 総合人間科の学習	430	2.08 (.70)	2.24 (.57)	1.97 (.71)	2.20 (.72)	2.08 (.74)	1.97 (.72)
16 体育の学習	433	2.09 (.79)	2.05 (.79)	1.94 (.80)	2.13 (.75)	2.12 (.84)	2.14 (.75)
48 音楽の学習	426	2.26 (.75)	2.35 (.63)	2.18 (.77)	2.25 (.80)	2.25 (.75)	2.28 (.77)

	(全体)		(中1)	(中2)	(中3)	(高1)	(高2)
	有効数	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)
36 美術の学習	424	1.95 (.76)	1.91 (.74)	1.88 (.77)	2.01 (.79)	1.99 (.75)	1.95 (.74)
20 技術・家庭科の学習	429	1.94 (.72)	1.99 (.68)	1.86 (.73)	1.97 (.70)	1.98 (.76)	1.90 (.74)
29 道徳の学習	373	2.17 (.67)	2.44 (.56)	2.13 (.64)	2.24 (.61)	2.07 (.73)	2.05 (.69)
35 先生や級友の話をしっかり聞くこと	431	2.43 (.65)	2.51 (.53)	2.38 (.72)	2.33 (.68)	2.49 (.65)	2.42 (.64)
34 自分の考えをしっかりと述べること	428	2.31 (.70)	2.45 (.60)	2.28 (.72)	2.24 (.65)	2.30 (.77)	2.27 (.69)
56 むずかしい文章を読んで理解すること	426	1.86 (.72)	2.10 (.61)	1.93 (.72)	1.97 (.72)	1.76 (.74)	1.67 (.74)
62 自分の考えを文章にして明確に書けること	424	1.99 (.75)	2.18 (.64)	1.90 (.80)	1.95 (.76)	1.99 (.77)	1.96 (.75)
55 部サークル（運動系）にうちこむこと	387	2.25 (.84)	2.52 (.73)	2.36 (.76)	2.35 (.82)	2.15 (.89)	2.00 (.88)
09 生徒会活動をいっしょうけんめいすること	284	1.85 (.78)	2.07 (.65)	1.63 (.77)	1.71 (.79)	1.74 (.76)	2.00 (.83)
74 学級会活動をいっしょうけんめいすること	414	2.01 (.73)	2.39 (.57)	1.91 (.76)	2.01 (.70)	2.03 (.73)	1.78 (.75)
12 学校行事（学校祭など）に参加すること	434	2.51 (.67)	2.84 (.40)	2.44 (.67)	2.57 (.62)	2.56 (.67)	2.21 (.75)
46 部サークル（文化祭）にうちこむこと	311	1.99 (.86)	2.27 (.81)	2.09 (.86)	1.91 (.90)	1.95 (.84)	1.86 (.86)
家庭生活有能感 ( $\alpha = .72$ )	214	1.96 (.42)	2.15 (.32)	1.85 (.44)	2.02 (.42)	1.90 (.41)	1.91 (.45)
47 料理をじょうずに作ること	407	1.94 (.77)	2.06 (.71)	1.84 (.76)	1.90 (.78)	1.84 (.73)	2.04 (.85)
58 洗濯のてぎわがよいこと	368	1.88 (.76)	1.97 (.71)	1.78 (.77)	1.90 (.78)	1.82 (.81)	1.92 (.72)
24 掃除がじょうずなこと	429	2.03 (.72)	2.12 (.66)	1.92 (.75)	2.01 (.72)	2.05 (.70)	2.03 (.76)
26 家のこわれたところを直すこと	305	1.80 (.74)	1.89 (.77)	1.71 (.76)	1.87 (.73)	1.76 (.71)	1.78 (.75)
13 電気器具を修理すること	352	1.73 (.74)	1.84 (.69)	1.63 (.78)	1.77 (.75)	1.68 (.69)	1.74 (.80)
51 かんたんな家具を作ること	330	1.85 (.79)	1.88 (.80)	1.85 (.08)	1.76 (.78)	1.78 (.75)	1.95 (.84)
37 草花や植物を育てること	398	1.91 (.75)	2.09 (.72)	1.83 (.78)	1.90 (.79)	1.88 (.76)	1.86 (.73)
28 動物や昆虫を育てること	393	1.94 (.77)	2.21 (.71)	1.92 (.78)	1.93 (.77)	1.86 (.80)	1.83 (.76)

	(全体)		(中1)	(中2)	(中3)	(高1)	(高2)
	有効数	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)
52 家庭菜園で野菜を育てること	272	1.79 (.76)	1.86 (.73)	1.80 (.81)	1.80 (.84)	1.75 (.74)	1.76 (.74)
18 自分の衣服を選ぶこと	428	2.26 (.71)	2.33 (.68)	2.16 (.76)	2.36 (.63)	2.16 (.72)	2.29 (.72)
39 礼儀作法について学ぶこと	388	2.26 (.73)	2.38 (.71)	2.12 (.75)	2.22 (.76)	2.31 (.75)	2.26 (.69)
03 手芸・あみ物がじょうずなこと	352	1.64 (.77)	1.78 (.77)	1.48 (.70)	1.73 (.75)	1.51 (.74)	1.74 (.83)
私生活有能感 ( $\alpha = .73$ )	275	2.05 (.35)	2.16 (.33)	2.02 (.35)	2.08 (.35)	2.03 (.35)	1.98 (.37)
66 マンガについてよく知っていること	424	2.09 (.75)	2.18 (.76)	1.91 (.76)	2.15 (.77)	2.10 (.71)	2.09 (.74)
70 流行歌についてよく知っていること	423	2.03 (.78)	1.90 (.81)	2.10 (.75)	2.05 (.81)	2.10 (.74)	1.98 (.80)
76 楽器をうまく演奏すること	418	2.03 (.80)	2.21 (.74)	2.03 (.83)	2.01 (.81)	1.96 (.77)	1.99 (.84)
08 囲碁・将棋・マージャンなどができるこ	332	1.87 (.83)	2.15 (.85)	1.80 (.86)	1.76 (.78)	1.75 (.83)	1.92 (.78)
05 テレビ(コンピュータ)・ゲームに強いこ	419	1.94 (.79)	1.96 (.79)	1.86 (.85)	2.08 (.75)	1.85 (.76)	1.97 (.79)
72 魚つりがじょうずなこと	310	1.46 (.66)	1.59 (.75)	1.46 (.69)	1.42 (.65)	1.41 (.61)	1.48 (.65)
07 学校外でスポーツにうちこむこと	380	1.98 (.83)	2.16 (.87)	1.89 (.84)	1.98 (.77)	2.01 (.86)	1.89 (.80)
53 パソコンを利用できること	413	2.09 (.78)	2.39 (.69)	2.05 (.85)	2.10 (.80)	1.92 (.73)	2.10 (.81)
64 小説・物語を読んで理解すること	428	2.34 (.76)	2.48 (.73)	2.25 (.78)	2.41 (.77)	2.35 (.76)	2.23 (.73)
54 映画についてよく知っていること	425	1.79 (.75)	1.81 (.74)	1.70 (.75)	1.80 (.76)	1.78 (.76)	1.83 (.73)
11 旅行をして楽しめること	426	2.73 (.53)	2.91 (.29)	2.72 (.54)	2.70 (.57)	2.69 (.60)	2.69 (.54)
69 おしゃれをすること	415	1.99 (.76)	2.10 (.78)	1.78 (.79)	2.03 (.72)	2.00 (.77)	2.03 (.74)
31 新聞を読んで理解すること	417	2.21 (.70)	2.33 (.68)	2.21 (.72)	2.32 (.71)	2.11 (.71)	2.13 (.69)
41 テレビドラマについてよく知っているこ	428	1.89 (.78)	1.92 (.78)	1.99 (.75)	1.92 (.83)	1.92 (.79)	1.75 (.74)
02 テレビのスポーツ中継についてよく知っ ていること	360	1.76 (.75)	1.82 (.68)	1.63 (.71)	1.90 (.76)	1.76 (.81)	1.73 (.73)
25 テレビの歌番組についてよく知っている こと	427	1.96 (.77)	1.88 (.77)	1.96 (.75)	2.00 (.79)	2.06 (.77)	1.88 (.77)

	(全体)		(中1)	(中2)	(中3)	(高1)	(高2)
	有効数	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)
社会的有能感 ( $\alpha = .85$ )	247	2.21 (.38)	2.37 (.35)	2.17 (.42)	2.21 (.36)	2.22 (.37)	2.16 (.41)
17 人前ではずかしがらずに話すこと	431	2.06 (.77)	2.24 (.68)	1.93 (.82)	2.01 (.77)	2.14 (.81)	1.99 (.73)
65 同性の友だちとうまくやっていく (よい人間関係をきずいていく) こと	431	2.56 (.61)	2.70 (.54)	2.41 (.71)	2.64 (.53)	2.59 (.61)	2.48 (.62)
10 異性の友だちとうまくやっていく (よい人間関係をきずいていく) こと	412	2.16 (.72)	2.37 (.68)	1.99 (.69)	2.10 (.69)	2.07 (.73)	2.26 (.73)
49 先輩とうまくやっていく (よい人間関係をきずいていく) こと	402	2.30 (.73)	2.39 (.71)	2.13 (.75)	2.39 (.71)	2.33 (.68)	2.24 (.78)
59 後輩とうまくやっていく (よい人間関係をきずいていく) こと	364	2.30 (.75)	2.52 (.67)	2.14 (.79)	2.38 (.64)	2.29 (.76)	2.28 (.80)
27 先生とうまくやっていく (よい人間関係をきずいていく) こと	423	2.23 (.68)	2.46 (.65)	2.07 (.68)	2.22 (.60)	2.25 (.71)	2.17 (.71)
68 母とうまくやっていく (よい人間関係をきずいていく) こと	433	2.57 (.64)	2.64 (.56)	2.57 (.67)	2.52 (.66)	2.58 (.61)	2.54 (.70)
23 父とうまくやっていく (よい人間関係をきずいていく) こと	422	2.34 (.75)	2.41 (.77)	2.23 (.78)	2.32 (.74)	2.43 (.68)	2.31 (.78)
43 お年よりとうまくつきあえること	405	2.34 (.71)	2.47 (.69)	2.26 (.78)	2.31 (.66)	2.34 (.71)	2.33 (.69)
14 小さい子どものめんどろをみること	419	2.37 (.76)	2.58 (.69)	2.29 (.76)	2.35 (.77)	2.36 (.73)	2.32 (.81)
15 芸能界についての知識を話すこと	418	1.91 (.77)	1.80 (.82)	1.91 (.71)	2.03 (.79)	2.00 (.77)	1.81 (.76)
04 スポーツについての知識を話すこと	411	1.85 (.78)	1.93 (.76)	1.75 (.72)	1.83 (.79)	1.93 (.84)	1.80 (.76)
57 社会・政治問題について意見を言うこと	401	1.65 (.75)	1.71 (.73)	1.63 (.72)	1.69 (.75)	1.62 (.79)	1.63 (.74)
75 手紙やはがきを書くこと	420	2.21 (.80)	2.51 (.61)	2.13 (.83)	2.30 (.79)	2.12 (.83)	2.09 (.85)
44 Eメールで手紙をだすこと	335	2.41 (.78)	2.59 (.66)	2.42 (.78)	2.34 (.85)	2.37 (.79)	2.38 (.78)
42 電話で言いたいことをうまく伝えられること	426	2.26 (.75)	2.38 (.68)	2.22 (.78)	2.16 (.75)	2.29 (.76)	2.26 (.76)
45 お金をじょうずに使うこと	429	2.12 (.75)	2.40 (.70)	2.03 (.77)	2.24 (.73)	2.01 (.75)	1.99 (.73)
38 ボランティア活動をいっしょうけんめいすること	342	2.01 (.77)	2.44 (.59)	1.92 (.81)	1.95 (.70)	1.98 (.80)	1.82 (.77)
67 こまっている人を助けること	426	2.25 (.63)	2.49 (.50)	2.21 (.68)	2.11 (.61)	2.25 (.63)	2.19 (.67)
33 人を笑わせること	417	2.20 (.70)	2.41 (.59)	2.21 (.77)	2.18 (.63)	2.14 (.72)	2.12 (.74)

	(全体)		(中1)	(中2)	(中3)	(高1)	(高2)
	有効数	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)
77 フィールドワーク先の方とうまくやっ ていく(よい人間関係をきずいていく)こと	416	2.40 (.69)	2.68 (.47)	2.32 (.78)	2.34 (.70)	2.45 (.67)	2.22 (.72)
身体的有能感 ( $\alpha = .61$ )	299	2.07 (.40)	2.16 (.30)	2.00 (.48)	2.13 (.38)	2.00 (.38)	2.10 (.40)
60 小さなものや遠くのものが見えること	420	1.73 (.85)	1.79 (.88)	1.79 (.89)	1.77 (.84)	1.68 (.84)	1.66 (.84)
50 小さな音が聞き分けられること	386	2.22 (.75)	2.38 (.63)	2.08 (.82)	2.13 (.75)	2.21 (.73)	2.28 (.79)
30 微妙な味の違いがわかること	387	2.12 (.78)	2.20 (.67)	2.09 (.84)	2.20 (.77)	2.02 (.08)	2.12 (.80)
22 容姿がよいと人から言われること	386	1.58 (.62)	1.61 (.58)	1.48 (.62)	1.63 (.57)	1.58 (.67)	1.60 (.61)
71 微妙なおいもかき分けられること	390	2.05 (.76)	2.08 (.71)	1.99 (.77)	2.03 (.81)	2.01 (.74)	2.12 許.79)
21 病気にかかりにくく、健康でいられること	433	2.31 (.72)	2.44 (.64)	2.22 (.74)	2.33 (.72)	2.24 (.74)	2.34 (.76)
32 食欲がおうせいであること	432	2.50 (.66)	2.52 (.66)	2.51 (.65)	2.47 (.66)	2.45 (.69)	2.56 (.62)
61 何でも好き嫌いなく食べられること	433	2.10 (.86)	2.20 (.83)	1.96 (.92)	2.17 (.81)	2.07 (.84)	2.12 (.88)

生活有能感、家庭生活有能感である。家庭生活有能感が最も低いということは、生徒たちが家庭での仕事をあまり経験していないことを反映しているように思われる。

第二に、生活感情についての結果はTable 2-2に示すとおりであった。まず、概してどの領域でも肯定的感情である面白さや喜びの頻度が高く、否定的感情である怒りや悲しみの頻度が低いという特徴が認められた。領域ごとの違いに注目すると最も肯定的感情が高く、否定的感情が低いのは学校・家庭以外の場面であった。つまり、学校や家庭のように何らかの大人の規範の影響や行動の制限を受ける場以外の所で、肯定的感情が最も高かったのである。他方、肯定的感情と否定的感情の差が最も小さかったのは家庭場面であり、家庭場面で望ましい感情は相対的に低いといえる。また、授業場面と授業以外の校内場面を比較すれば、後者の方が肯定的感情が高かった。授業場面の怒りは、4つの場面の中で最も高くなっていた。また、授業場面の肯定的感情についていえば、喜びよりもむしろ面白さをより頻繁に感じていた。

第三は生活満足度に関してであり、結果はTable 2-3に示されていた。全般を除いた3つの場面でいえば、友人関係の満足度が最も高く、学校生活が最も低かった。家庭生活はその間であり、先の生活感情で家庭場面が最も肯定的感情が低かったことは矛盾する。しかし、これはそれぞれの場面で項目内容が異なるので単純に比較できないだろう。



表 2-2 日常感情項目得点の平均値と標準偏差

	(全体)		(中1)	(中2)	(中3)	(高1)	(高2)
	有効数	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)
<b>授業場面</b>							
怒り	387	2.01 (1.27)	2.03 (1.35)	2.49 (1.40)	1.84 (1.20)	1.82 (1.17)	1.98 (1.16)
喜び	387	2.30 (1.29)	2.41 (1.34)	1.96 (1.29)	2.55 (1.31)	2.52 (1.31)	2.05 (1.14)
悲しみ	388	1.72 (1.05)	1.70 (1.09)	1.82 (1.09)	1.89 (1.15)	1.61 (1.03)	1.70 (0.95)
面白さ	388	2.45 (1.32)	2.32 (1.33)	2.13 (1.29)	2.32 (1.24)	2.85 (1.33)	2.44 (1.31)
<b>校内場面</b>							
怒り	394	1.71 (1.09)	1.57 (1.05)	1.79 (1.12)	1.53 (0.98)	1.71 (1.09)	1.90 (1.17)
喜び	393	2.60 (1.35)	3.06 (1.23)	2.34 (1.38)	2.80 (1.29)	2.57 (1.36)	2.31 (1.34)
悲しみ	393	1.76 (1.12)	1.58 (0.96)	1.92 (1.24)	1.72 (1.14)	1.72 (1.13)	1.86 (1.14)
面白さ	394	2.60 (1.31)	2.63 (1.32)	2.38 (1.37)	2.80 (1.22)	2.75 (1.33)	2.43 (1.30)
<b>家庭場面</b>							
怒り	377	2.00 (1.23)	2.00 (1.24)	2.17 (1.35)	2.02 (1.27)	1.91 (1.14)	1.98 (1.23)
喜び	378	2.22 (1.35)	2.30 (1.41)	2.08 (1.30)	2.44 (1.40)	2.26 (1.38)	2.06 (1.25)
悲しみ	378	1.93 (1.18)	1.93 (1.15)	1.89 (1.24)	1.89 (1.23)	1.96 (1.19)	1.93 (1.15)
面白さ	378	2.08 (1.29)	2.12 (1.38)	1.92 (1.25)	2.18 (1.31)	2.13 (1.33)	2.07 (1.21)
<b>学校・家庭以外の場面</b>							
怒り	391	1.70 (1.12)	1.88 (1.24)	1.75 (1.13)	1.55 (1.05)	1.61 (1.05)	1.74 (1.14)
喜び	391	2.79 (1.34)	2.85 (1.35)	2.69 (1.32)	3.03 (1.29)	2.83 (1.40)	2.60 (1.31)
悲しみ	391	1.65 (1.06)	1.49 (0.86)	1.57 (1.05)	1.53 (0.97)	1.80 (1.20)	1.74 (1.11)
面白さ	391	2.72 (1.35)	2.60 (1.41)	2.72 (1.33)	2.85 (1.30)	2.88 (1.36)	2.52 (1.31)

表 2 - 3 生活満足感項目・尺度得点の平均値と標準偏差

	(全体)		(中1)	(中2)	(中3)	(高1)	(高2)
	有効数	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)
学校生活満足感 ( $\alpha = .81$ )	427	3.39 (0.84)	3.84 (0.76)	3.43 (0.82)	3.38 (0.85)	3.38 (0.79)	3.05 (0.80)
01 今の学校生活に満足している。	432	3.49 (1.25)	3.93 (1.09)	3.62 (1.11)	3.59 (1.33)	3.53 (1.27)	2.95 (1.23)
06 学校の先生に対して親しみを感じる。	432	3.11 (1.18)	3.72 (1.09)	2.77 (1.19)	2.88 (1.18)	3.28 (1.12)	2.87 (1.14)
08 *学校を休みたいという気持ちになることが多い。	431	3.16 (1.29)	3.35 (1.27)	3.49 (1.18)	3.10 (1.30)	3.12 (1.31)	2.89 (1.31)
11 これまで学校で学んできたことに満足している。	432	3.31 (1.03)	3.85 (0.91)	3.21 (1.08)	3.38 (1.05)	3.27 (0.98)	3.00 (0.99)
13 *学校にいるのは時間のムダだと感じる。	432	3.77 (1.13)	4.16 (1.07)	3.86 (1.08)	3.81 (1.05)	3.70 (1.11)	3.45 (1.19)
16 学校での経験は、将来の生活や職業に役に立つと感じる。	431	3.50 (1.15)	4.01 (0.94)	3.75 (1.08)	3.52 (1.13)	3.41 (1.16)	3.02 (1.13)
家庭生活満足感 ( $\alpha = .83$ )	429	3.71 (0.85)	3.91 (0.70)	3.56 (0.91)	3.76 (0.86)	3.84 (0.78)	3.50 (0.91)
02 家族から学ぶことは多い。	433	3.64 (1.08)	3.88 (0.87)	3.61 (1.11)	3.75 (1.06)	3.73 (1.11)	3.29 (1.10)
05 自分の家族が好きだ。	433	3.81 (1.06)	3.99 (0.89)	3.81 (1.11)	3.77 (1.10)	4.03 (0.96)	3.49 (1.16)
10 *家族をとりかえてしまいたいという気持ちになることが多い。	431	3.77 (1.19)	3.83 (1.17)	3.51 (1.31)	3.82 (1.13)	3.93 (1.11)	3.73 (1.24)
14 自分は家族に愛されていると感じる。	430	3.60 (1.04)	3.76 (1.02)	3.32 (1.15)	3.58 (0.91)	3.79 (0.95)	3.50 (1.12)
19 家にいると、いごちが良い。	432	3.72 (1.14)	4.13 (0.88)	3.53 (1.25)	3.86 (1.15)	3.73 (1.03)	3.42 (1.24)
友人関係満足度 ( $\alpha = .83$ )	416	3.92 (0.75)	3.98 (0.82)	4.00 (0.71)	3.96 (0.68)	4.02 (0.68)	3.69 (0.80)
03 友だちといると楽しい。	426	4.39 (0.82)	4.38 (0.93)	4.55 (0.73)	4.47 (0.71)	4.44 (0.78)	4.19 (0.88)
09 これまで、あたたかく信頼できる友人関係を作ってきた。	427	3.76 (0.99)	3.76 (0.96)	3.77 (1.00)	3.85 (0.92)	3.94 (0.92)	3.49 (1.09)
15 *友だちといるより、ひとりでいる方が気楽だ。	428	3.36 (1.14)	3.62 (1.19)	3.54 (1.22)	3.39 (1.06)	3.33 (1.05)	3.08 (1.17)
17 今の友人関係に満足している。	431	3.82 (1.08)	4.03 (1.19)	3.71 (1.17)	3.85 (1.06)	3.94 (0.99)	3.61 (1.00)
20 友だちには感謝している。	432	4.21 (0.88)	4.16 (0.89)	4.29 (0.87)	4.19 (0.78)	4.38 (0.74)	4.04 (1.04)
全般的な生活満足感 ( $\alpha = .63$ )	426	3.45 (0.80)	3.53 (1.01)	3.34 (0.87)	3.60 (1.02)	3.31 (0.91)	3.01 (0.82)

	有効数	(全体)	(中1)	(中2)	(中3)	(高1)	(高2)
		M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)
(項目12を除く) ( $\alpha = .70$ )	428	3.30 (0.91)	3.59 (0.86)	3.48 (0.77)	3.40 (1.26)	3.49 (0.80)	3.21 (0.76)
04 * 今の生活はたいくつだ。	432	3.41 (1.15)	3.68 (1.22)	3.42 (1.18)	3.93 (1.10)	3.42 (1.15)	3.06 (1.09)
07 私は自分の生活に満足している。	430	3.21 (1.19)	3.60 (1.15)	3.34 (1.13)	3.25 (1.14)	3.12 (1.18)	2.80 (1.13)
12 自分の将来には夢を持っている。	430	3.89 (1.21)	3.77 (1.30)	3.88 (1.26)	3.42 (0.89)	4.03 (1.15)	3.79 (1.24)
18 * 自分が生きていることの意味を見出せない。	431	3.28 (1.13)	3.32 (1.19)	3.27 (1.19)	3.54 (0.78)	3.35 (1.10)	3.20 (1.06)

\* 逆転項目 (平均値が高いほど、そのように感じていないことを表わす)

### 学年間の比較

次に、学年別に整理した結果に注目してみよう。最初に有能感であるが、Figure 1 に学年間の変化が示されている。学校生活有能感の合計点の平均値の高さは中1、高1、中3、中2、高2の順であった。通常なら受験期に相当する中3で特に低くなっているわけではなく、これは中高一貫校の特色なのかもしれない。学習内容等が難しくなる高2で有能感が最も低くなるのは理解できるが、中2もかなり低いのはなぜか、今のところ十分説明できない。入学時の高揚した気分に対して一種の中だるみ現象なものかもしれない。教科学習でこのような学年別の変化傾向と異なるのは数学(中3で最も高い)、体育(高2で最も高い)、美術(中3で最も高い)などである。学校生活有能感の分散分析の結果、学年差がみられる ( $F=5.637$ ,  $df=288$ ,  $p<.01$ )。そして多重比較 (Tukey

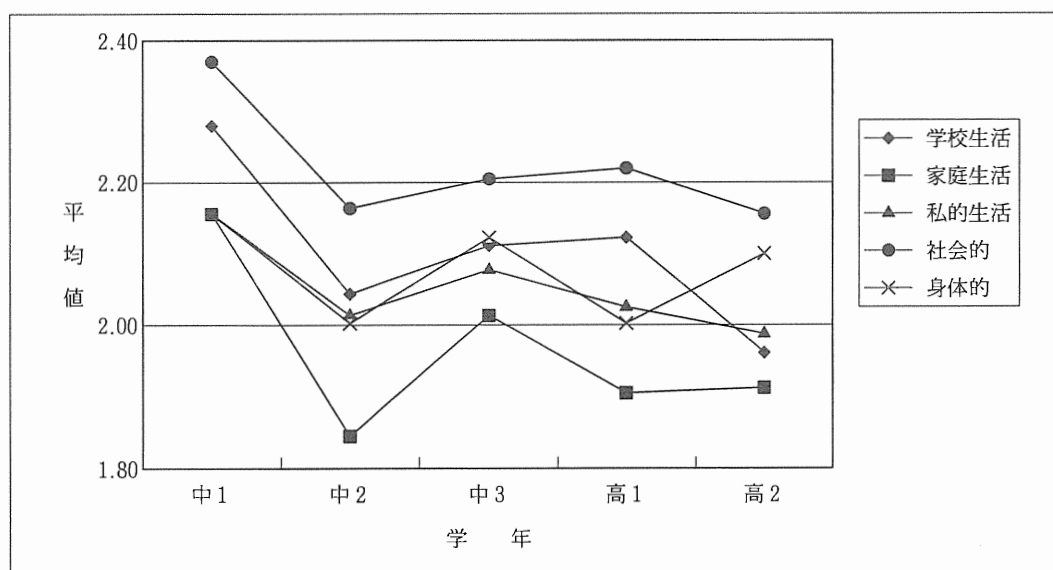


図1 有能感尺度得点平均値の学年差

HSD)により、中1と中2の間に $p<.05$ で、中1と高2の間には $p<.001$ で有意差が認められた。

家庭生活有能感の学年差も、先の学校生活有能感のそれと近似していた。ただ、最も低いのは中2であった。分散分析の結果、学年差 ( $F=3.160$ ,  $df=209$ ,  $p<.05$ ) が認められ、多重比較では中1と中2の間に $p<.05$ で有意差がみられた。

私的生活有能感の学年差は相対的に小さかった。しかし、総じてここでも中1の有能感が高かった。項目別にみると、中1が必ずしも最も高くないのは「流行歌についてよく知っていること」「テレビ(コンピュータ)ゲームに強いこと」「テレビの歌番組についてよく知っていること」などである。

次に、社会的有能感はどの学年でも高いのが特徴である。相対的に中1で高く中2、高2で低いことは、他の領域と同様の傾向である。本校では、高1で1クラス分40名が新しく入学し、友人関係が懸念されるところであるが、「同性の友だちとうまくやっていくこと」の有能感に関して、特にその学年で低下しているわけではなかった。

身体的有能感の学年差も小さく、概して目立った差異はみられなかった。

全体的にみれば、中2での有能感の低下が気になるところである。しかし、中3では再び向上しており、それは最初に考えたように、附属学校では高校受験の影響を受けないためと考えられる。

次に、生活感情であるが、授業場面での怒りは中2で顕著に高かった (Figure 2-1 参照)。これは先の分析で、学校生活有能感が中2で低いことに対応していた。この調査時期に中2で何らかの問題が生じていたのかもしれない。それに対応して、中2の喜び、面白さは他の学年に比べて低かった。また、悲しみの学年差は極めて小さかったが、高1で最も低く、その高1で面白さは極端に高かった。Figure 2-1からも明らかなように、肯定的感情と否定的感情の差異がこの高1で最も大きく、彼らが授業場面でも最も快適に過ごしていると推測される。

校内場面での感情に関しては、怒りの強さは高2、中2、高1、中1、中3の順であった。悲しみも高2、中2で相対的に高くなっていた (Figure 2-2 参照)。一方、肯定的感情である喜びは、中1で最も高く、中2と高2では低かった。面白さに関しては、中3、高1で高く、中2、高2で

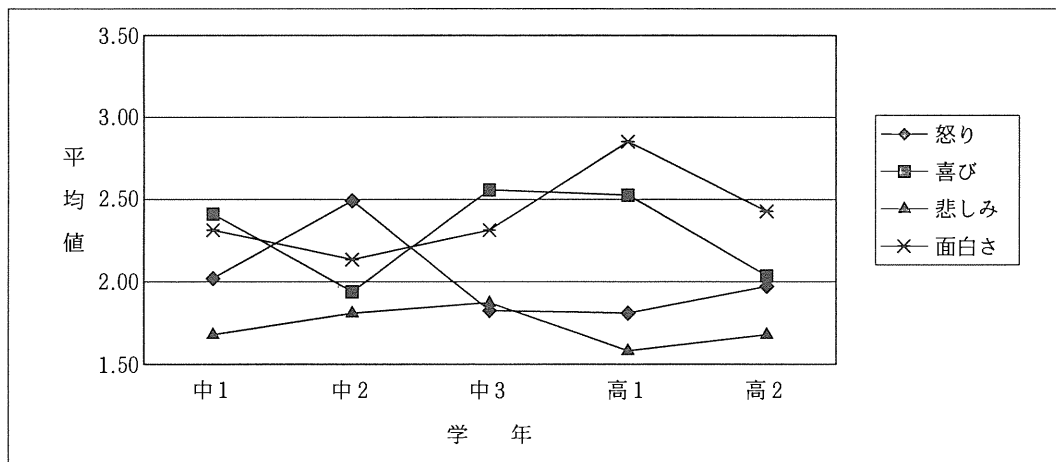


図2-1 日常感情項目得点平均値の学年差 (授業場面)

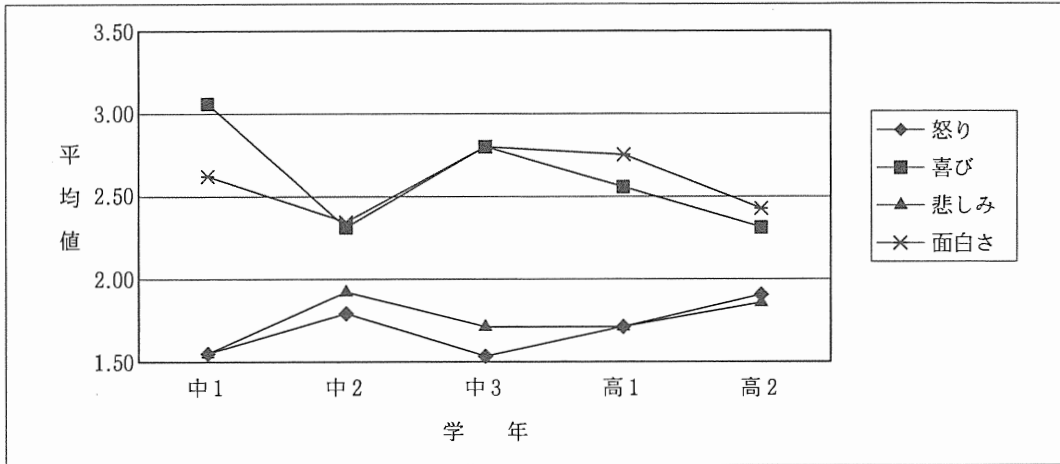


図 2-2 日常感情項目得点平均値の学年差 (校内場面)

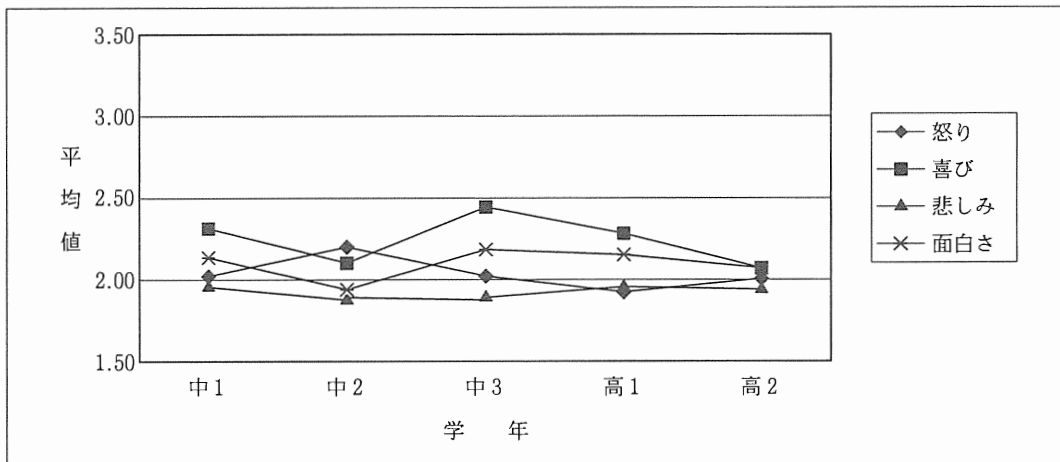


図 2-3 日常感情項目得点平均値の学年差 (家庭場面)

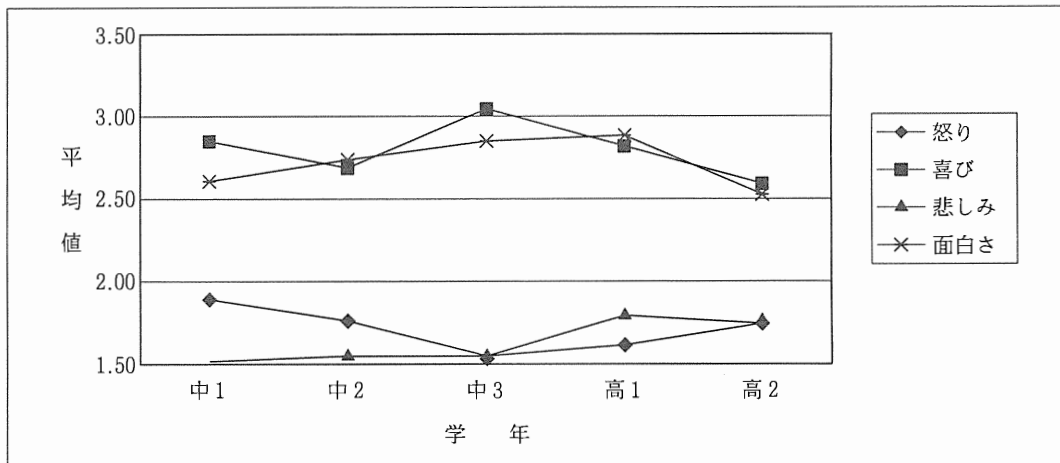


図 2-4 日常感情項目得点平均値の学年差 (学校・家庭以外の場面)

低くなっていた。校内場面では、高1よりもむしろ中3で肯定的感情と否定的感情の差が大きく、授業以外の学校生活を最も快適に過ごしているのは中3であるといえる。

家庭場面では、どの感情も相対的に学年差が小さかったが、中2は上記の学校場面と同様、肯定的感情が相対的に低く、否定的感情が相対的に高い傾向が認められた（Figure 2-3参照）。

学校・家庭以外の場面では他の場面とやや異なる傾向であり、怒りが最も高いのは中1、悲しみが最も高いのは高1、他方、肯定的感情の喜びが最も高いのは中3、面白さが最も高いのは高1であった。Figure 2-4からみると、中3で肯定的感情と否定的感情の差が最も大きく、学校・家庭以外の場面でも、通常なら受験期にある中3が、最も明るく行動しているものと推測される。

最後に、生活満足度の学年差についてみてみよう。学校生活の満足度の総点は、学年と共に下降する傾向がある（Figure 3参照）。分散分析の結果、学年差が認められた（ $F=10.431$ ,  $df=422$ ,  $p<.001$ ）。多重比較では、中1と全ての学年の間に $p<.05$ で、他に高2と中2および高1の間も $<.05$ で有意であった。

家庭生活に関する満足度においても、分散分析で学年差が示された（ $F=3.888$ ,  $df=424$ ,  $p<.01$ ）。ただし、その変化は必ずしも直線的とはいえず、一旦中2でかなり低下して、中3で少し回復し、また徐々に低下していた。中1が最も高く、高2が最も低いという点では先の場合と共通していた。

次に、友人関係の満足度は中1から高1までは同じような高さを維持していたが、高2になり、急降下していた。高1と高2の間には有意差が認められた。

共通して言えることは、生活満足度は家庭生活以外は中1から高1までほぼ横這いで、高2に低下していることである。

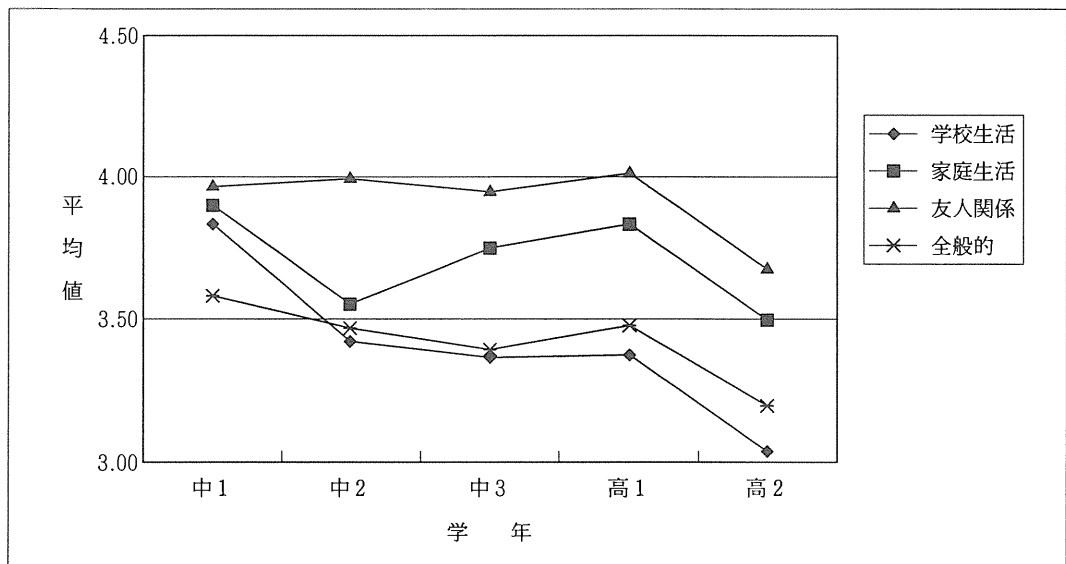


図3 生活満足感尺度得点平均値の学年差

## 【討論】

本研究は、附属生徒を対象として日常生活における有能感、感情、満足度について調査を行ったものである。まず、一般的にいえるのは、相対的に家庭場面での有能感が低く、正の感情よりもむしろ負の感情が強く、満足度も低いことであった。これは、彼らにとって家庭生活における関わりが希薄であり、充実したものになっていないことを推測させる。一方、昨今、青年の友人関係が親密なものになっていないという指摘も多いが、本調査で見ると、社会的有能感は比較的高く、学校での授業外の場面での感情は、喜びや面白さという肯定的感情が悲しみや怒りに比べて格別が高く、さらに友人関係満足度も高かったことから、本校の場合、友人関係は問題がなさそうである。

次に学年の上昇に伴う変化であるが、まず有能感については、これまでの研究では単調減少的な傾向を指摘しているものが多いのに対して、本校の結果はやや特異な傾向を示した。すなわち大まかにはどの領域の有能感も中1で最も高いが、次の中2で急降化し、中3、高1で再び向上し、高2で減少するというパターンを示していた。これは通常の中学なら受験の時期にあたる中3で低下すると考えられるのに対して、中高一貫校である本校ではそのような傾向が見られなかったということができるが、一方で中2の有能感の極端な落ち込みは何を意味するのかという疑問も生じることとなった。

感情生活に関しては、まず、授業場面については喜びや面白さという肯定的感情は、中3、高1あたりで最も高く、中2で最も低い傾向が示された。大まかには先の有能感の学年的変化に対応している。校内場面に関しても、やはり先の有能感で示された変化がみられた。家庭場面については、どの学年でも肯定的感情は低く変化がみられなかった。逆に、学校・家庭以外の場面では、どの学年も肯定的感情が高く、大きな変化はみられなかった。

最後に、生活満足度についてであるが、友人関係では中2の落ち込みが無く、高1までほぼ横這いで、高2で低下していた。学校生活、家庭生活、全般的では先の他の変数でもみられたように、中2で一度低下する傾向が示された。

すべての尺度について見られた予想されなかった結果、すなわち中2の適応感の低下はなぜなのかについての説明が今後の課題である。この調査を行った年の学年だけの傾向なのか（この時期特にその学年に何らかの深刻な問題が一時的に発生していて質問紙に反映されたかもしれない）、精神発達上、中高一貫校に毎年みられる傾向なのか（一種の中だるみ的なものとも解釈できる）明らかにせねばならない。

## 【引用文献】

- 保坂 亨 2000 学校を欠席する子どもたち 東京大学出版会。
- 笠井孝久・村松健司・保坂 亨・三浦香苗 1995 小学生・中学生の無気力感とその関連要因 教育心理学研究, 43, 424-435.
- 松井 仁・村田純子 1997 青年用有能感調査票の検討 教育心理学研究, 45, 220-227.
- Seligman, M. E. P., & Csikszentmihalyi, M. 2000 Positive psychology: An introduction. *American Psychologist*, 55, 5-14.